

# FOMC – 利上げ決定も、利上げペースは維持 –

## <政策金利を引き上げ>

3月14～15日（現地時間）に米連邦公開市場委員会（FOMC）が開催され、フェデラルファンド（FF）金利の誘導目標のレンジを0.50%～0.75%から0.75%～1.00%へ引き上げることを決定しました。

声明文では「労働市場およびインフレの現状と見通しを踏まえ、FF金利の誘導目標を引き上げることを決定した」としています。

FOMCの参加者による金利見通しでは、今後の利上げ回数は今回も含め2017年に3回、2018年も3回と前回の見通しが維持されています。

また、同時に発表された経済見通しでは、2017年の経済成長率は2.1%と据え置かれましたが、2018年が2.0%から2.1%へと小幅に上方修正されました。

## <米ドルは下落>

今回の利上げは市場予想通りであったものの、今後の利上げペースなどについては市場参加者が警戒するほどタカ派な内容とならなかったことを受けて、米ドルは主要通貨に対して下落しました。

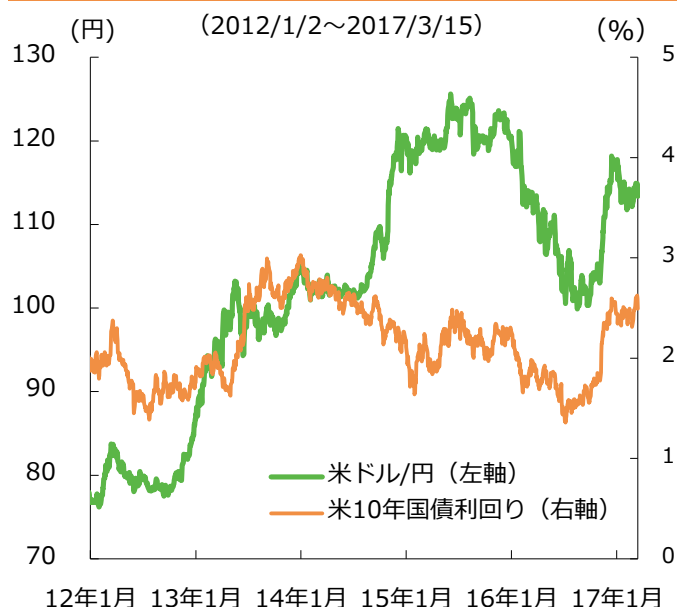
15日海外終値は1米ドル = 113.38円、1ユーロ = 1.0734米ドルとなっています。

## <今後の見通し>

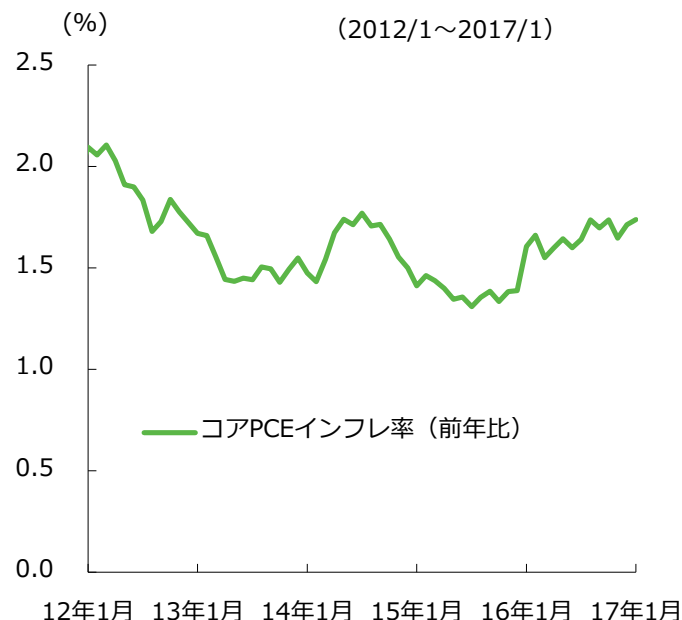
FRBは米国の堅調な経済成長や雇用環境の順調な回復を背景に今後も緩やかなペースで利上げを継続する一方、日銀は昨年9月に導入した“長短金利操作付き”量的・質的金融緩和の継続が見込まれます。

こうした日米金融政策の方向性の違いを背景に日米金利差の拡大傾向は続く見込まれ、昨年11月以降の円安米ドル高基調は続くと考えられます。

## <米ドル/円、米10年国債利回りの推移>



## <米国のインフレ率の推移>



出所：Bloomberg